

## 平成 27 年度第 2 回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 会議名 平成 27 年度第 2 回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 平成 27 年 7 月 29 日（水） 14 時～16 時
- 3 開催場所 一関市役所 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者

### 【一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】

秋山真紀子委員、河合純子委員（副座長）、佐々木吉幸委員、佐藤馨委員、佐藤進委員、  
佐藤善子委員、柴田尚志委員、滝上亜寿香委員、千葉実委員（座長）、野村勉委員、  
藤田勝敏委員

（欠席委員）

伊藤龍治委員、小野寺真澄委員、熊谷由美子委員、鈴木里美委員、千葉幸則委員、  
渡邊美紀子委員

### 【市側出席者】

田代副市長、佐藤市長公室長、千葉政策企画課長、藤島政策企画課主幹、佐藤政策企画課長補佐

## 5 議 題

- (1) 「一関市人口ビジョン（骨子案）」について
- (2) 「一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）」について

## 6 公開、非公開の別 公開

## 7 傍聴者の数 なし

## 8 会議の内容

### 【副市長挨拶】

- この有識者会議は、6 月 24 日に第 1 回会議を開催し、当市のまち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針や人口の現状などについて説明申し上げ、ご意見をいただいたところ。
- 市では、現在、人口ビジョン策定に向けた分析を行うとともに、結婚・出産・子育てや、移住に関する希望など、統計データを補完するためのアンケート調査を実施しているところ。
- 本日は、第 2 回会議として、当市の人口減少、少子高齢化の中にあって、今後の活力あるまちづくりのベースとなる人口ビジョン及び総合戦略の骨子案について協議いただくこととしており、よろしくをお願いしたい。

### 【協議】

- (1) 「一関市人口ビジョン（骨子案）」について  
政策企画課主幹：資料No.1～資料No.4により説明

(質疑)

委員：総合計画について総合計画審議会で審議しているとのことであるが、この有識者会議の役割をどのように理解すればよろしいか。

市：有識者会議では、人口ビジョンと総合戦略の策定について関係者の意見を反映するほか、施策・事業の推進状況について効果検証を行っていただくものである。

人口ビジョンと総合戦略については、この有識者会議で議論をいただき、総合戦略から抽出した内容が、総合計画ではプロジェクト編として位置付けられるものをご理解いただきたい。

そのことを踏まえて、総合計画策定に係る検討状況を示したものであり、また、総合計画審議会でも総合戦略策定に係る検討状況を示し、議論をいただいているところである。

委員：確認するが、有識者会議は、人口ビジョン及び総合戦略の策定にあたり各方面から意見を聞く場であり決定機関ではないこと。また、市の基本的な発展計画である総合計画から、現在重要となっている人口減少問題に特化して専門的に議論を行う場であり、総合計画と人口ビジョン・総合戦略は整合しなければならないこと、という理解でよろしいか。

市：そのとおりである。

委員：将来人口推計について、独自推計とする理由を確認したい。

市：1歳階級別人口推計を行うことで、推計結果について、より細かな活用ができることなどから採用したものである。

委員：独自推計のほうが国立社会保障・人口問題研究所の推計と比べて低い推計値となるが、それでも構わないという判断か。

市：今後、総合戦略の策定にあたり、自然減及び社会減に対する施策等の議論をいただくことを踏まえ、現状のまま推移した場合の厳しめの推計値として示したものである。

委員：シミュレーションの仮定値の設定について、実現性は考慮しているのか。

市：シミュレーションにおける仮定値は、仮に実現したとしても人口減少が続くという見込みを示すために設定したものである。

委員：人口の目標値を設定するためのシミュレーションではなく、頑張っても難しいという厳しさを示すという趣旨ということか。

市：そのとおりである。

委員：一関市は合併で現在の人口になった市であり、旧一関市と周辺とでは差があるのではないか。人口10万人以上の都市で人口減少率が高いのは小樽、一関、函館の順である。周辺の過疎化が進んでいるということなのか、ターゲットを定めるためには分析が必

要であり、地区別でどうなっているのか。

市：合併前は、周辺町村から旧一関市への流入が多かったうえに、旧一関市からの流出があったほか、地域においては、高齢者人口がピークを過ぎたという傾向なども見られるところであり、次回地域別の資料を出せるように準備する。

(2) 「一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）」について

政策企画課主幹：資料No.5により説明

(意見)

委員：都市間競争になる中で、一関のオンリーワンを考えるべきだと思う。例えば自然環境で、何もないことが一番の美德だと言われているが、流動人口を増やすためには観光資源をどう活用するかということで、例えば何もないことに対して観光客が来る、ということも考えたほうがいいのか。

子どもを育てるには収入がないとできない。保育所、託児所が足りない

Uターンしても仕事がない。地場の農業法人を拡大させるなど、雇用の場を作らないと戻ってきても仕事がないということになる。

委員：まず、具体的なものを作ることが大事である。

次に、安定した雇用の創出により生産年齢人口を維持・増やすという方向になるが、それだけではなく、様々な方を広く受け入れるやさしいまち、といった視点があってもいいのではないか。

また、CCRC について、アクティブシニアを受け入れて、ビジネスとして成り立たせるという面がある。一関市は交通有利地であり、首都圏から日帰りで親に会いに来られるという環境を生かして、福祉や CCRC といった方向性も考えられる。

最後に、雇用について、地場企業を元気にして雇用が生み出せれば、安定的な発展につながるということを考えてよいと思う。

委員：岩手県は工業の面では県南・県央の誘致企業の存在が大きいですが、誘致企業は賃金の安さから地方に来るもので、人口が減れば去っていく。地場企業が多くあればよいが、一関はそれほど多くはないと思う。よし悪しは別にして、思い切って外国人の移民を入れるという発想が必要な時代が来ると考えている。それだけの人口の減り方になっており、それくらいの発想の転換がないと難しいと思う。

【委員意見】

○ 誘致企業は給料が高く、地場企業が人材確保に苦勞しているとの声が聞かれるので、地場企業に対する支援が必要と思う。また、これまでもまち・ひと・しごとの3つの柱で様々な施策を講じてきたと思うので、これから取り組む内容は今までと何が違うのかという点が示されれば良いと思う。

○ 基本的にはどの市町村も同じようなことを考えるので、その中で一関市の特徴を見出さな

けれどもならないが、一番は住みやすさだと思う。住みやすい環境がなければ定住も就労もないので、住みやすい環境をつくることを主体に考えてほしいと思う。住みやすさを中心とすることが一つの方法であり特色になるのではないかと思う。また、学びの場、学校の充実ということで、4年制大学の本校でなくても例えば分校を誘致して、高専の卒業生が編入できるという選択肢を作るなど、一関市は住みやすさと教育の場が優れている、という方向性を考えている。

○ 住みやすさは人によって違うので難しいところでもある。まちづくりは仕事があってこそなので、市だけでなく企業も努力しなければならない。また、新聞・ラジオをもっと有効に効果的に使ってほしいと思う。

○ 一関は自然や交通の面で住みやすいまちだと思う。出生率を上げるには、このまちに住み、結婚、出産、子育てしたいと思えるようなまちにしなければならない。そのためには、学校や、病院などもあるが、一番は経済的な面だと思う。若い人が子どもを産んで育てるにはお金がかかるので、保育園を無料にするなど、思い切った政策を取らないと出生率は伸びていかないし、その前に若い男女が結婚して子どもを産み育てたいと思えるまちにしてほしいと思う。

○ 一関は人が健全なまちだと感じている。環境としては良いところ。男女参画について、女性の社会進出が岩手は遅れていると思う。これから子どもの数が減って働き手が減れば女性が進出せざるを得ないので、女性が色々なところへ進出してほしいが、女性が働きやすい環境を整えないと女性は働けない。ここが一番大きな問題だと思う。

○ 一関は住みやすいまちだと思う。気取らないで心優しい人が多い。

子どもをもう一人持ちたいと思っても経済的に厳しい。子育て支援を打ち出せば出生率は上がると思う。保育所、幼稚園で第3子から無料となっているが、他では第2子から無料のところもある。医療費は今年から中学生まで補助されるので魅力的であるが、小学生に上がった後の補助がないと感じる。

磐井病院で休診中の診療科があり、市外に受診しに行かなければならないことがあった。

保育園で待機児童があるのはあと5年くらいで、以後は子どもが少なくなるので解消されると聞いた。保育士の数が足りないということで、地域毎に状況が違うと思う。

公立の保育料が徐々に上がっていく。延長保育も考えていると聞いたが、女性が働くうえで、幼稚園は1時半で帰ってくるので、せめて4時くらいまで預かり保育が有料でもあれば働きに出られるが、1時半に迎えに行かなければならないとなると難しい。

○ これをやればよくなる、という決め手はないと感じる。自分ができることとしては、市がやっていることを周知できるように動かなければならないと思う。市もいつもやることをやっているのだから、それをこつこつと続けていって市民の理解を深めて、日本中が同じことをする中で、主体性を持った市民が集まっているまちが一番出生率が上がったり、地元に残ったりする、という流れができていけばよいと思う。

○ 人口予測は精度が高いので、手は打つにしても人口が減少していくことは事実だろうと思

う。では、人口減は悪なのかというと、人口がある程度減るという前提では悪ではなく、減る中で良いまち、住みやすいまちをつくるということに考えを変えないと、人口を増やすことに注力してもそう簡単にはいかないと思う。

行政がやること、民間がやること、協力してやることをはっきり区別しないといけない。

人、物、金、時間が限られる中で、冷静に考えて、ある程度人口が減るという前提の中で住みやすい良いまちを目指していかないと、総花的になって、人口を増やすことだけにエネルギーを注力して結果が出ない、となるのではないかと危惧している。

- 出産も社会進出もしなければならない女性は大変だと思う。一関市全体で捉えるのではなくて、地域間で違いがあると思う。室根では、若い人が結構住んでいる印象で、楽しんでいるように見える。移住したり、家を継いだりという人も多いが、親と同居して、子どもの面倒を見てもらうなど助けてもらうことや、反対に我慢することをお互いに感じながら、成長できると思う。同居世帯への特典を出すなど、核家族ではない暮らしを作っていくことも良いと思う。田舎では婿を希望する女性が多い。お婿さん希望の女性限定の婚活イベントなど、ピンポイントで集まってもらうやり方も良いと思う。

「若い世代の結婚、出産の希望をかなえる」となっているが、若い世代に限らず、それ以外の方々の願いもかなえられる暖かいまちであればいいと思う。

地域ごとに具体的な作戦をたてるのが良いと思う。

- 3点申し上げる。1点目は、自然減対策も行いつつ、社会減対策が中心になるのかと感じたが、雇用へのこだわりが必要。観光客や売り上げを増やすということは手段であって、雇用にこだわってはどうか。仕事があれば引っ越していくが、このまちが良いとなっても簡単には引っ越せないなので、雇用について対策を考えると良いと思う。

2点目は、シナリオが大切。過去の推移があり、原因分析があり、ゆえに人口ビジョンがあり、対応として総合戦略をたてる、という流れで策定すると説得力が上がる。勿論、人口ビジョンと総合戦略は策定するだけでなく実行することが大事だが、説得力は大切だと思う。

3点目は、重要な内容の資料であり、委員への資料の事前配布の徹底をお願いしたい。

#### 【副市長発言】

- オンリーワンのもの、一関ならではのものをやっていきたい。

企業誘致は難しい中で、地場企業の育成や、新しい分野を拓いていくことが必要と思う。

いかに具体的なものが作れるか、また、シナリオが大事とのご意見があったが、どのような物語を作ってこのまちを作っていくか、という考え方が基本であると思う。

新しい人の流れについては、パイの奪い合いの面もあるが、現実としてどれだけ一関に来ていただいて、一関で住み続けることができる環境を作っていけるかということであり、行政ができること、民間がやらなければならないことなど、日本全体で人口減少に取り組んでいかなければならないことである。

住みやすさについて、取り組んでいることを皆さんに知ってもらうのは難しいところがある。子ども子育て支援について、保育園の保育料は国の基準から51%引いている。また、公立幼稚園は月7,000円から上がるが、国の基準から51%引いた額を負担していただいている。

一関から外に出て就職する高専や高校の卒業生がいるが、都会とは給料の額が違うが、トータルで見た住みやすさを、就職する高校生、その親御さんや就職担当の先生方に一関が取り組んでいることを理解していただきたいと思う。

男女参画についてもきちんとやっていかなければならないと思う。

幼稚園の延長保育についても、取り組めるように準備させているところである。

地域毎に活発に活動しているので、他の地域にも伝わるようにしていきたい。

今後もいろいろなご意見をいただき、一関ならではのものを作り上げていきたいのでよろしくお願ひしたい。

## 9 担当課

市長公室政策企画課